

ミライのフツーに 向かって

山村と都市が共存する豊田市で、どんなミライをめざしていくのか。そのミライのフツーをどのように創っていくのか。おいでん・さんそんセンターを運営する(一社)おいでん・さんそんの正会員に想いを語ってもらいます。

第11回 **鈴木啓佑**さん(農家民宿ちんちゃん亭)

1980年豊田市押井町出身。農家民宿ちんちゃん亭、あなぐまさんの米ぬか発酵温浴を経営。20代後半、お金の仕組みの欠陥が地方の過疎化、環境問題、格差貧困などの主要因になっていることを知り、脱サラして地元旭地区で就農。過疎化、耕作放棄地など課題山積する地元で地域自治に積極的に参画する。押井営農組合にてマネー資本主義のアンチテーゼとして「自給家族」方式の農地保全・自治再生活動をはじめ、普及に取り組む。

幸せを手に入れ、爆速で成功者になる方法を知っています！
なぜなら 僕自身がそうだと思っているからです！間違いなく成功者(自称)です！金はそんなにないけど。

地域活動ばかりやって！もっと仕事してよ！とよく奥さんに怒られています。でもボランティア精神で利他的な素晴らしい人を目指してるわけではなく、むしろ実は結構、損得勘定でやってるんですよ。問題はただ、金はべつに稼げないという点だけ。集落営農組合スタッフとして地域で働いたり、自治体役員や消防団や市民活動として地域活動に一生懸命になることって、実にさまざまなものを与えてくれる。顔の見える身近な誰かのために尽くすことで、自分の存在意義みたいなものも感じることができると、ここが居場所だなんて思える。

たぶん、僕が突然死んじやったとしても、家族や友人、この地域の中で関わってきた人たちの心の中で生き続けられるんじゃないかと思うと、あんまり寂しくない。自分なりに精一杯頑張った人生だったよなって納得して死ぬような気がしている。

お金持ちではないけど、自分の役割があり居場所がある。持病もあるがそこそこ健康、毎日食べるものがちゃんとあり、住む場所があり、安心を与えてくれる家族や友人、地域の人達がいる。それ以上に望むものはない。幸せになるための、人生に成功するための必要条件がすべて揃っている。

つまり、価値基準をどう捉えるかで誰でも人生の成功者になれると思う。お互い様で信頼にもとづく人とのつながりや、地域を守る活動に時間と労力を投資することで、所属感、貢献感または安心感というような様々なリターンをみんなが稼ぐことができたとしたら、本人も周りの人たちもぜったいに幸せになれるでしょう。ミライではそういう人生成功者ばかりいるのが普通になったらいいな。そしたら僕にも恩恵ありそうだし(笑)

イベント情報

令和4年度いなかとまちのくるま座ミーティング参加者募集

今年度でくるま座ミーティングは10回目を迎えます。数々の「つながり」が生まれ、新しい取り組みが実現しています。紛争や気候変動、人口減少や不安定な経済など、不確実な時代を私たちは生きています。競い合うのではなく、「つながり」支え合うことで、持続的で幸福なミライを創っていきましょう。

- 日時 | 2023年2月11日(土) 13:00~17:10(受付開始12:30)
 - 場所 | 小原交流館ふれあいホール(豊田市永太郎町落681-1)
 - プログラム | 13:00 開会
- 13:10 第1部「じぶんごと」に取り組む山村地域の活動者トークセッション**
山村地域をフィールドに、「いなか」と「まち」をつなげる活動をされている方たちに登壇いただきます。
- 発表者 * 辻竜也さん(里山とまちを繋ぐ有志団体Byrrpon) * 鈴木聖人さん((株)富士産機) * 木下貴晴さん(Kinoファーム) * 鈴木孝典さん(三河里旅/広告デザイナー) * 荒川偉洋子さん(北小田の家) * コーディネーター * 洲崎燈子さん(矢作川研究所)

- 14:15 くるま座ぷらっとミーティング**
じぶんごとに取り組む3つのプロジェクト~私たちワイガヤしてます!~
- * 人と地域の学びの循環プロジェクト(発表者:戸田友介さん/(株)M-easy)
 - * 地域経済循環プロジェクト(発表者:村田元夫さん/(株)ピー・エス・サポート)
 - * 自治研究プロジェクト発表者:高野雅夫さん/名古屋大学大学院教授)
- 一休憩一

くるま座談義①『地域ではたらくに向き合う』②『地域でお金を循環させるには』③『家・農地・山林の引き継ぎ方と自治力とは』
まとめの全体会

- 17:10 終了**…希望者は夜なべ談義(交流会)へ
- 申込期間 1月12日(木)9:00~2月9日(木)17:00
 - 申込方法 以下の内容について①~③いずれかの方法でお申し込みください。*参加者名*郵便番号*住所*電話番号*メールアドレス*所属先(あれば)



①Googleフォーム(QRコード読み取り、またはおいでん・さんそんセンターホームページ内リンクの入力フォームから) ②FAX 0565-62-0614 ③電話(受付は平日8:30~17:00)0565-62-0610

- *応募者の個人情報、本事業の運営以外には使用いたしません。
- 問合せ | おいでん・さんそんセンター TEL:0565-62-0610 mail:sanson-center@city.toyota.aichi.jp
- 夜なべ談義(交流会)参加者募集 * 定員30名 * 参加者5,000円ほど * 会場は小原交流館近くの飲食店※詳しくはお問合せください。
- 新型コロナウイルスの感染拡大状況によって完全オンラインになる場合があります。



「つながる力でミライを変える」おいでん・さんそんセンターの活動をご紹介します!

おいでん・さんそんSHOW



PICK UP

3ヶ所で開催し、下山地区29名、小原地区32名、足助地区37名が参加



みんなとつながり、ミライを語ろう!『ぷらっとミーティング』開催



12月に開催した足助地区での『ぷらっとミーティング』には、平日にも関わらず37名もの参加があった

プラットフォーム会議とは

皆さんは、地域づくりを実践する上で、「プラットフォーム」というキーワードをご存知でしょうか。プラットフォームは、地域づくりや地域の課題解決に取り組むいろいろな活動主体が集い、相互作用によって新たな活動や価値を次々と生み出していくことであり、そのコミュニケーション基盤となる仕組みです。おいでん・さんそんセンターは設立当初から、市民、NPOなど活動団体や企業、行政、専門家など様々な人が集う「プラットフォーム会議」という場を設け、夢や目標、課題や悩みを語り合うことで、数多くの新しいミライへの取組やつながりを創出すると共に、センターの運営や方針についても決めてきました。

新たに生まれた『ぷらっとミーティング』

今年度から始まったぷらっとミーティングは、山村住

民と都市部からの参加者がぷらっと集まって地域のことを語り合う場です。そして、「つながる力でミライを変える」をミッションとするセンターが、都市と山村の新たなつながりづくりのきっかけのひとつとして、「みんなとつながり、ミライを語ろう」をテーマに、参加者の活動紹介や課題共有など、地域ごとを自分ごととして考えてもらうきっかけづくりの場として開催しました。

下山・小原・足助ぷらっとミーティング開催

記念すべき第1回は、7月に下山地区で開催しました。当日は地域で農業や畜産を営む関係者や子どもの居場所づくりに取り組むお母さん方、そして地域の取りまとめ役を務める区長さんなど29名が参加しました。和合自治区元区長で地域のまとめ役の松田敏明さんは「中山間地域の問題のすべては人口問題。移住が一番大事」と地域の人口減少問題についての課題意識に



(左)下山地区では、まどいの丘を会場に開催
(右上)足助地区での開催には、足助高校の校長も参加
(右下)小原地区では、農地保全の話題が中心だった

ついて話されました。羽布自治区で子どもの学びの場を作る長坂真理子さんは「せっかく家族で移住してきても、高校進学時に山村地域から通学するのは家族に大きな負担がかかる。これがクリアできないと地域の持続は難しい」と具体的な通学問題について言及されました。これをもとに、参加者全員で通学問題と山村地域の公共交通の課題について積極的に意見が交わされました。

9月に小原地区で開催された第2回では、32名の方が参加し、多くの参加者が関心を持っていた地域の農地保全のことを、小原ごととして考えることとなりました。

小原地区では耕作放棄地が年々増加の一途をたどっています。しかし、実際に農地を守ろうとするとお金や人手の問題が出てくるという意見も出ました。そこで、旭地区の押井営農組合の鈴木辰吉さんが、生産者と消費者が一つの家族となって農地を守る「自給家族」について話された他、足助の萩野地区で半農半林活動を行う山本薫久さんからは、都市住民との仲間・グループづくりや農機具共有など「新しい結」の形での米づくりについて話されました。

他地区の実践例の話を受け、小原地区へ移住し自給農を実践する小崎博幸さんからは「農と子どもの教育を合わせた新しい形は、農地を守るひとつの方法になるのではないかと意見が出されました。また、同じく移住者の寄田恵美さんは「自分たちが動けば、子ども世代にもつながる。私もやれることからやっていきたい」と話し、小原ごとを自分ごととして考える良い機会となったようです。

12月には足助地区で第3回を開催しました。当日は37名の参加者により、「山村地域に関心を持ってもらうにはどうしたら良いか」というテーマで議論しました。「田植えだけでなく、草刈りなど自然と触れ合うリアルな体験は重要」、「子どもたちが肌で感じる自然体験の場を作りたい」などの発言の後、「気軽な自然体験からより深く交流や学びができる場まで、山村に目を向ける人それぞれの段階に応じたプログラムが情報としてまとまると良い」という意見が出され、参加者全員で山村地域の持続可能なミライに向けて積極的に取り組む機運が生まれました。

ミライに向けた新たな動き

下山地区では、その後、大きな動きがありました。ぶらっとミーティングでの話し合いをきっかけに、特に子どもを持つ地域のお母さんが中心となって高校生の通学問題を自分ごととして考え、実際に市に要望するという形で、地域が抱える課題に対して行動に移す事例がありました。今後もぶらっとミーティングで、ミライに向けた様々な動きが地域から生まれることを期待したいと思います。

ぶらっとミーティング開催を通して

初めての取組となったぶらっとミーティングですが、多くの皆さんに参加いただき、当日は活発な意見交換が行われ、多様なつながりも生まれました。

少子・高齢化による人口減少社会で、自分たちの地域をど

うしていくのかを自分ごととして捉えて行動することは大変重要なことです。ぶらっとミーティングにより、地域課題に関心を持ち、自分ごととして考える方が増えていくことはミライの地域社会にとって大変心強いことです。

おいでん・さんそんセンターは今後もこうしたことへの共

感が広がるよう、地域でつながる機会を積極的に設けて、つながる力が生み出す新しいミライを応援していきます。(川端光平)



第10回いなかとまちのくるま座ミーティング開催のお知らせ

2023年2月11日(土)に小原交流館でおいでん・さんそんセンター主催の「いなかとまちのくるま座ミーティング2022」を開催します。遡ると2012年10月、総務省主催「全国過疎シンポジウム2012あいち」分科会として、「田舎を語ろう! 全国くるま座ミーティング」が足助交流館で開催されました。その後2013年に「おいでん・さんそんセンター」が開所し、毎年くるま座ミーティングを続けています。くるま座ミーティングは今年度の開催で10回目となります。



2022年度テーマ「つながる力で変わる『じぶんごと』のミライ」

これまで増加してきた豊田市の人口も、ついに減少に転じました。もう山村地域は移住定住だけでは存続が難しくなっています。これからは「関係人口」と呼ばれる、定住でもなく観光でもない、多様な関係性で「いなか」と「まち」をつなぐ人たちの存在が重要になってきます。テーマには、こうしたお互いの課題を『じぶんごと』と感じ、つながり動くことで、持続可能で幸せな「ミライ」が創られていくという思いを込めています。第1部では、『じぶんごと』として取り組んでいる山村地域活動者のトークセッション。今年度は関係人口を共通のテーマとしています。それぞれ、どんな関係づくりをしているのか注目です。令和4年1月に山村条例(豊田市山村地域の持続的発展及び山村の共生に関する条例)が施行されました。おいでん・さんそんセンターでは、山村条例が目指すものに基づき、今年度から3つのプロジェクトを始動しました。人と地域の学びの循環プロジェクト、自治研究プロジェクト、地域経済循環プロジェクトです。

第2部では、各プロジェクトからの報告と「くるま座ぶらっとミーティング」として、関連したテーマで語り合います。テーマは、①地域ではたらくに向き合う、②地域でお金を循環させるには、③家・農地・山林の引き継ぎ方と自治力とは、の3つです。皆さんの興味があるミーティングにご参加ください。10回目のくるま座ミーティングでつながりを創っていきましょう。募集の詳細は、今月号のイベント情報に掲載していますので、ご覧ください。お申し込みをお待ちしています!

